

既存の製品であっても、妥協ナシ センスブランドは挑戦し続ける

マフラー業界の雄、センスブランドが高響音マエストロサウンド奏と200クラウン用エアロ・センセーションを一新。1年も経たずに改良した、その狙いを解説する。

文 奥山 貴嗣 Tatsugu Okuyama 写真 本間 章悟 Shogo Homma

ワンオフマフラー屋として、VIP業界に名を馳せるセンスブランド。今年の東京オートサロンでは、F1カーを彷彿とさせるサウンドが自慢のマフラー、高響音マエストロサウンド奏をデビューさせた。また同時に、オリジナルエアロ・センセーションの200クラウン用を発表。マフラー屋の枠を飛び越えて活躍する万能さが、同社の強みだ。

話題性に事欠かないセンスブランドだが、今回、リリースしたばかりの2点を、早々とリニューアル。その理由を、代表の結城さんはこう語る。

「新たに挑戦したいことが、次々と湧いてくるんです。もちろんお客様のリクエストに応えたり、流行に乗じて改善させたという理由もあります。でも自分たちがやりたいこと、やるべきことは大事にしていかないと僕は思っています」。

決して現状に満足しない攻めの姿勢。それが業界の最前線を走る、センスブランドのプライドだ。

早速、それぞれの改良点を見ていく。まずは同社の技術とノウハウの結晶、高響音に触れるべきだろう。変更点はタイコの内部構造。詳細は企業秘密だが、元々備えていた高音と、アイドリングの静けさをより

「さらに、高音発生時に感じていた僅かな雑音すらも除去。以前にも増して、クリアな音質を獲得しました」。

エアロに至っては、フロントバンパーのデザインを大幅に変更。高級感と今風を感じる意匠と言えば、スピンドルグリル。200クラウンをより洗練された姿に仕上げるために、そのエッセンスを取り込んだ。

グリル下からさり気なくラインを出すようにして、やり過ぎないスピンドルラインをイメージ。また、存在感が増したフロントとのバランスを考えて、サイドとリアは下に延長。ダイナミックなスタイルを意識して、全体のバランスを調整しました」。

顕著に感じられるようになった。

「来年のサロンでは、LS前期にエアロと高響音を装着して出展予定です。かなりカッコいいので、期待してくださいね」。



センスブランド代表
結城 啓一郎

SENSETION
for 200CROWN

SENSE BRAND

tel 0467-38-7432 http://www.sensebrand.jp



フロントバンパー	8万2080円
サイドステップ	6万9120円
リアバンパー	7万5600円
上記3点キット	20万5200円
リアウイング	4万1040円
アンダーアイライナー	4万1040円
フォグランプ(4個セット)	2万5920円
フロントグリル	4万1040円
フロントフェンダーキット	8万2080円

200クラウンに新しい印象を取り込むスピンドル造形

スピンドルはデモカーのようにあえて塗り分けはせず、さり気なく主張するのがオススメ。フロントは、下に僅かに延長せることで重厚感を増した。フォグボケット

外側のラインは、以前は下上がりだったのを、上下がりに変更。「全体的にハデとシンプルの中間を狙いました。街乗りで大人っぽく乗りたい方にぜひ勧めたいです」。

サイドとリアはそれぞれ、1.5cmと2cm下に延長。ずつりとしたスタイリングを手に入れた。

グリル下から自然に通したスピンドルライン。左右にせり出すラインとのバランスを考え、フォグの間隔を短縮させた。

高響美音の真骨頂。より高音、よりクリアな音質を実現

リアピースに改良を加えて進化を遂げた、高響音マエストロサウンド奏。「さらに甲高く鳴り響く超高音。それを透明感のある上等な音質で実現させました」。しかも、

アイドリング時の静肅性も向上。決して高音で目立たせるだけではない。TPOに即したジェントルな乗り方も実現できるのが、このマフラーの魅力なのだ。

20万9520円~(リアピース両側)
15万120円(フロント/センターセット)



もちろん専用のステーも独自開発。サイレンサーには、ブランド名をアピールする切り文字をレーザー加工を入れる。



とぐろを巻いたような特徴的なカタチは健在。性能に追隨する機能美も備わっている。